

第18回伊那市誌編さん委員会議事録

日 時	令和7年6月5日（木）10時00分～12時00分
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出 席 者	編さん委員：13名（欠席：7名） 事務局：教育長、教育次長、室長、係長、担当
議 題	市長への進捗状況報告、進捗状況確認、デジタル化について

【報告事項】

1 市長との面談報告について

- ・5月2日、市長へ、委員長、教育長、教育次長、室長、係長の5名で、市誌編さん業務進捗の説明と、概説編Ⅱの刊行遅延についての報告を行った。委員長から市長へ、概説編Ⅱの発刊について2年の延期をお願いし、了承していただいた。（事務局）
- ・編さん委員会の発足当初、どういった市誌を作るか協議をしたわけであるが、読みやすさとか、内容の調査の仕方とか、そういったことをもう少し広く討議すべきだった。総合的に考えれば、それが2年間の遅延につながってしまったのではないかと思う。報連相の至らなさも遠因となっていることも事実なので、徹底をお願いしたい。併せて、今後はできる限りこのようなことが起こらないよう、各部会でご努力いただきたい。（委員長）

2 進捗状況の確認について

- ・5月末日時点の進捗状況について、各編の現況を記載した表を配布してある。項目作成、担当者確定、原稿作成について部会ごとに状況の確認をしていただき、編さん作業をお願いしたい。最後の令和10年度、11年度については、5冊ずつの発刊となっており、厳しい発刊スケジュールとなっている。早く発刊できるものは、前倒しするなど検討していく必要があると考えている。（事務局）
- ・今年度刊行予定の3冊の原稿の流れの中に、「素読み」の作業が加わった。（株）ぎょうせいに渡した原稿はそのまま初稿入稿とはならず、まず（株）ぎょうせいの校正部で、内容の表現、内容が正しいのか、疑問点、修正案を細かいところまで点検してもらい、それを一回執筆者に戻すという作業が行われている。そのほうが、その後の初稿から校正、再校の苦労が少なくて済むということである。素読みの作業は時間がかかるが、その作業も含めて、執筆、刊行作業が行われていることをご理解いただきたい。（委員長）
- ・令和7年5月30日付で、特に文化財に精通されているお二人に協力員を委嘱させていただいた。文化編の文化財と、概説編Ⅱに関して協力していただく。（事務局）

3 デジタル化について

- ・令和5年7月、年表部会が発足した。年表編を編集する担当であるが、そこに併せてデジタルアーカイブを検討していくことになった。現在、デジタルデータの保存をどうしていくのか、指針や内容等の検討を具体的にしていこうという現状となっている。

- ・まずデータベースの構築を行い、動画やオーラルヒストリー、市誌の原稿として編集、収集している文書や写真などをデータベース化する。市誌編さん終了後も、継続して資料を収集保存できるデジタルアーカイブを行っていききたい。その中の一部をウェブ上で公開していくが、公開するにあたりどんな活用ができるのかを、これから考えなければならない。
- ・デジタルアーカイブはなかなかイメージしづらい。その具体化への第一歩として、令和7年度発刊予定の各分冊からいくつか項目を選び、関連する動画や写真等をウェブ上でまず公開したい。市のホームページの編さん室のページの中に、伊那市誌デジタルアーカイブを開設し、発刊に併せて紙媒体の印刷では出せなかった動画や掲載された写真等を見られるようにする。これにより、委員、市民の皆さんにも、今後どんなものがデジタルアーカイブにされていくのか、どんなふうに活用できるのか、イメージしてもらえと思うので、今年度から具体的に着手してみたい。
- ・収集した写真、資料をどうやってデジタル化して保存していくのか、まだ具体的な指針は持っていない。ただ、すでに先行している国立国会図書館などに一定のガイドラインがあるため、そういうものを参考にしながら、伊那市誌編さん室として、どのようにデジタル化していくのかというガイドラインを早急に整えたいと考えている。
- ・データベース化していくにあたっては、動画や画像、音声など様々なものが集まるが、保存にかなりの容量のハードディスクが必要になってくる。情報漏洩しないように安全な場所での管理が必要となってくるので、昨年度、市の情報政策推進課と相談し、編さん室専用のファイルサーバを確保できることになった。そこに保存していくという流れの中で準備をしたいと思っている。
- ・今後、実際に数年後に公開ということになれば、活用の検討をしていくことが課題である。学校教育、生涯学習、福祉、防災の関係など、活用という視点での他部署との連携が必要となってくるため、今年度以降、機会を設けてもらい、意見交換をしていきたい。(年表部会長)

＜検討課題＞

- ・編さん事業が終わった後にデジタルアーカイブをどうするのか、その方向性を示してほしい。完成後も活用していかなければならないので、その人材も含めて情報政策推進課でやるのか、また他部署でやるのか、今年度検討していただき、来年度にはある程度、方向性を出してほしい。(委員)
- ・まず今年度に編さんされる3冊の中からピックアップしたものを、デジタル化して活用しようというプランが示されているが、発刊と同時にやるというスケジュールなのか。(委員長)
- ・紙版のデジタルブックは考えていない。概説編Ⅰの場合は上空からの映像など、紙では得られない関連する情報を考えている。ほぼ同時に、このアーカイブのページと、市誌の発刊を併せることで、手軽にスマホを使って市誌のことを知ってもらい、その流れで実際の市誌を手にとるということになればよいと考えている。(年表部会長)
- ・編さん事業は令和11年度で終わる。それまでにアーカイブはできると思うが、今後どこの部署が担当するのか、その係を含め、どのように公開していくのか、コンセンサスをこのスケジュール表に入れておいたほうがよい。(委員)
- ・アーカイブの全体像がつかみにくいので、もう少ししぼった提案をしてほしい。細かく限定しろという意味ではなく、全体像や市誌との関係を含めて、今後どのようになっていくのかということ、編さん委員会の中で、どこに焦点を絞ってアーカイブ化を進めるのかということをも提案してほしい。(副委員長)

- ・現在のところ、具体的にアーカイブ化、活用については、まだピンポイントで決まっていない。各部会にアーカイブについての要請もしていない。まだやることは決まっていない。動画等の撮影の要請についてもしていない。自分たちが資料として必要だと考えたならば、自分たちで動画を撮影してほしいということになる。(委員長)

4 確認事項

- ・「伊那市誌の構成」は、各編で内容を検討して決定していただくものがあるので、部会で十分検討してほしい。原稿は「章」単位でのまとめで作成し、できた原稿をEメールや電子記録媒体を使って提出してほしい。原稿の入稿は、発刊年度前年の10月末、約18か月前となっている。お忙しいとは思いますが、協力をお願いしたい。(事務局)
- ・写真については、市役所の広報係で撮影したものは令和6年度までは整理している。その中から提示することができる。いつのどんな場面の写真を限定して問い合わせしてほしい。写真の目録として大まかな項目分類で作成したものはあるので、年度ごとで示すことができる。部会で利用できるように、分類一覧表を早急に配る。(事務局)
- ・原稿として写真等を提出したときに、掲載可能なものを提出してもらうのがベスト。分からないものは使用可能なものなのか、事務局と確認、相談してほしい。原稿執筆者が、オープンにできるものを原稿に付けてほしい。アーカイブに使用できるものが公開できるものになる。それらを編さん室でストックすることになる。(事務局)
- ・文化部会では、来年度発刊予定の文化編の調査をしている。それを元に、公開するということではなく、文化財のデータベース化をしていきたい。市誌編さんの資料なのか、文化財としてのデータベースなのかという仕分けを、事務局も一緒に考えてほしい。(委員)
- ・会議資料の中に、編さん室職員の名簿があるが、誰に何を頼んでいいかわからない。誰がどの職務を専門的に担当しているのか、何をやるのか書いておいてほしい。(副委員長)

【その他】

1 次回(第19回)編さん委員会の日程について

9月以降を予定している。各編の進捗やデジタル化の検討状況を見ながら、日程調整して開催をお願いしていく。